

2024 年 7 月 1 日

報道関係者各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

**共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)地域共創分野
リスペクトでつながる「共生アップサイクル社会」共創拠点
(プロジェクトリーダー: 環境情報学部教授 田中浩也)が
「鎌倉サーキュラーアワード」を開催**

— 市民・事業者・起業家を対象とした3つの部門を同時開催 —

慶應義塾大学が代表機関となり、幹事自治体の鎌倉市、参画企業（幹事企業：株式会社カヤック）、参画大学と進めている リスペクトでつながる「共生アップサイクル社会」共創拠点では、国立研究開発法人科学技術振興機構（以下 JST）による「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)地域共創分野」の一拠点として、日本の「循環型まちづくり」に資する研究開発と拠点形成を進めています。

本年度より、新たな取り組みとして「鎌倉サーキュラーアワード」を開催いたします。本アワードは、鎌倉市の「ゼロ・ウェイストかまくら」の取り組みを礎とし、「循環者になるまちづくり」へ発展させながら、最終的に「循環型ビジネス（サーキュラーエコノミー）」創出にまでつなげていくことを目指すものです。市民、事業者、起業家を対象とした3つの部門による構成としており、それぞれの立場から取り組みを披露し、磨き合い、高めあうことを目的としています。

3部門のうちスタートアップ部門については、全国からの応募が可能です。また市民部門は、「湘南エリア」に在住、勤務、もしくは定期的に通っている（サーフィン、買いもの等）、個人、家族、チーム（友人同士など）が応募できます（鎌倉市在住でなくても「湘南」に関わっていると自認されていれば、応募が可能です）。

応募の締め切りは、8月26日（月）で、本アワードの結果発表と表彰式は、10月5日（土）に生涯学習センターで開催される「第2回循環創造学シンポジウム」の一部として開催される予定です。



<https://award.junkansha.jp/>

■鎌倉サーキュラーアワード概要

1. 市民部門

応募内容：

小学生からお年寄りまで、誰でも応募できる市民部門です。どうすれば、日常の中で家庭からごみを減らし、それを楽しく続けていくことができるのか。広くアイデアを募集します。なお、審査員／アンバサダーでもあるお笑いコンビマシンガンズの滝沢さんの X(旧 Twitter) アカウント @takizawa0914 には、ゴミ清掃員から見た役に立つ情報が満載。アイデアを考えるときには是非、滝沢さんのアカウントをフォローして勉強しつつ、みなさんなりにそこからさらに発展させたアイデアを考えてみてください。

応募資格：

「湘南エリア」に在住、勤務、もしくは定期的に通っている、個人、家族、チーム（友人同士など）が応募できます。お子様からお年寄りまで、年齢にかかわらず応募することができます。鎌倉市在住でなくても「湘南」に住んでいると自認されていれば、応募が可能です。

賞品・賞金：

金賞 10 万円 銀賞 5 万円 銅賞 3 万円、今後の展開へのアドバイス

※小中学生が受賞された場合には、図書カード及び商品券に換えてお渡しいたします

審査員：

鎌倉市教育長 高橋 洋平氏

お笑い芸人兼ゴミ清掃員 滝沢 秀一氏

株式会社 nalu 代表取締役、株式会社 IBLG 地域循環事業プロデューサー、慶應義塾大学 SFC 研究所
所員 みなみ なおこ氏

2. スタートアップ部門

応募内容：

持続可能な社会の実現に向けた革新的なビジネスモデルを創出することを目指し、サーキュラーエコノミーに基づいたスタートアップを支援するビジネスプランを募集するスタートアップ部門です。循環型社会の先駆者として、循環型都市鎌倉での実証実験を通じて、皆様の事業を全国に広げていくアクセラレーションとなることを目指しています。

応募資格：

サーキュラーエコノミーに基づくビジネスモデルを持つスタートアップ企業が応募できます。企業の所在地は問いません

賞品・賞金：

- ・金賞 30 万円 銀賞 5 万円 銅賞 3 万円
- ・事業性と社会性、地域性とスケラビリティを両立するためのメンタリング
- ・実証実験の実施に向けた相談・マッチング

審査員：

日本経済団体連合会副会長、ヴェオリア・ジャパン代表取締役会長 野田 由美子氏

一般財団法人 SFC フォーラム 事務局長、SFC フォーラムファンド ファンドマネージャー 廣川 克也氏

『WIRED』日本版 編集長 松島 倫明氏

面白法人カヤック 代表取締役 CEO、COI-NEXT 慶應鎌倉拠点 副 PL 柳澤 大輔

3. 事業者部門

応募内容：

鎌倉に本社・支社を置く事業者で、経営改善や効率化（各種ロス削減やサービス向上など）の取り組みから「ごみ減量」の成果が生まれているもの、また、社員発の草の根の取り組みから、社長の一存による大胆な取り組みまで、社内外の取り組みで事業系ごみを持続的に減らしている活動などを幅広く募集し、委員会の確認を経て認定します。事業や会社の規模は問いません。取り組みを「定量化（数値化）」してレポートする方法については、実行委員会より適宜アドバイスも行います。

応募資格：

鎌倉市内に支社・本社を置く事業者であれば大小問わず応募できます。

認定委員：

久保田陽彦 鎌倉商工会議所 会頭、株式会社豊島屋 代表取締役社長

中村 悟 鎌倉商工会議所 副会頭、有限会社ナカムラ生花 代表取締役

牧田知江子 株式会社井上蒲鉾店代表取締役 鎌倉市芸術文化振興財団理事長

湯澤大地 株式会社 千里 代表取締役 面白法人カヤック 顧問、公益財団法人 鎌倉能舞台
評議員

賞品：

- ・認定事業者 表彰状、ステッカー、情報掲載ほか

実行委員長のコメント

田中浩也氏

慶應義塾大学環境情報学部 教授、COI-NEXT 慶應鎌倉拠点 プロジェクトリーダー



本格型の拠点活動が始まって約1年が過ぎました。この間、ごみ減量や資源循環に能動的に携わる市民や事業者の方々、そして起業を志す方々とたくさん知り合うことができました。このアワードは、そうした地域に根付いた「文化」をさらに未来につなげていくために、産学官民のさまざまな意見を集約しながら、企画したものです。それぞれの取り組み方を披露しあい、集めてみることで、さらなる知恵が広がっていくのではないのでしょうか。お互いの取り組みをリスペクトしあいながら、より良い試みを目指して切磋琢磨し、共創していくことが大切であると考えます。拠点ビジョンである「循環者になるまち」の実現に向かって、鎌倉からさらに他自治体、全国にまで、一歩ずつ輪を広げていきたいと考えています。

※本プレスリリースは、新聞各社社会部等に配信しております。

【本件についてのお問合せ先】

U R L : <https://coinext.sfc.keio.ac.jp>

E-mail : dmec@sfc.keio.ac.jp

【配信元】

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当

E-mail : kri-pr@sfc.keio.ac.jp